

檜洞丸遭難(時期不明)

同じ道を帰るつもりが下山で分岐を間違え、そのまま下ってしまった。冷静さを失ったのか登山道からも外れてしまい、滑落死に至った。



解説

つつじ新道を往復する予定が、檜洞丸の山頂から下山中、分岐地点を誤って石棚山稜方面へ下山してしまった。似たような登山道から、ミスに気付いたのは相当下山してからだと思われる。大石キャンプ場方面へ登山道を進むも、板小屋沢ノ頭付近で登山道を外れてしまい、違う尾根に迷い込み、滑落してしまった。

登山経験豊富だったにも関わらず道迷いを引き起こしたのは「以前来たことがあるから」という気の緩みという。通常、地図とコンパスの用意は鉄則だがこの時は携帯していなかった。遭難してから家族へメールを送っていたが、登山計画書が出されておらず、捜査は難航した。

この事例で、考えたいのは、同ルート下降のはずが、同じ道を下れないという事実。また、分岐を間違えた地点から1,351m三角点までほぼ、小さなアップダウンで平らであることから、「あれっ。おかしい」と気づいていると思われるが、そのまま進んでしまう事実。これが、道迷いの不思議である。さらに冷静さを失い、滑落に至ってしまった残念な事例となった。